

サンシルバー市川だより

通いなれた道の木々が赤や黄色に染まり、毎日に秋の深まりを感じる今日この頃です。11月7日は立冬、暦の上では冬になります。新型コロナウイルスの感染者は激減していますが、感染した人の4人に1人が今も後遺症に苦しんでいるという調査結果があります。感染しない、させないことが一番です。感染を再び広げないために、一人ひとりが基本的な感染防止策を徹底していきましょう。

秋冬の換気 窓の開け幅に注意

秋が深まり、外気が冷たくなりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、暖房をしながら常時換気を行っています。廊下も食堂も排煙窓を広く開け過ぎると寒いと感じるご利用者様もいらっしゃいます。ハンドルを回しながら一番狭い所で止めてください。寒そうにされているご利用者様の服装にも注意し、季節にあった服装で快適に過ごしていただきましょう。

ご利用者様の1年間の集大成と言つべき作品や写真を1階ホールに展示しています。密にならないように、ご利用者様には順番に見ていただきますよう。

文化祭
開催中

新型コロナウイルス

日本国内の感染者数

11月1日時点
NHKまとめ

感染者数	172万 3315人
重症者	122人
死亡者	1万 8287人
退院	170万 1105人

ワクチン接種が進んだこともあり、国内の感染者数は激減していますが、今までにこれだけ多くの大切な命が新型コロナウイルスによって奪われてしまいました。第6波を招くことがないよう、油断せず、気を緩めずに感染予防をしっかりと続けていきましょう。

仕事の前に申し送りのノートを

きちんと読んでいますか

どの部署においても申し送りは必要不可欠な業務です。高齢者の状態は、1日で大きく変化することがあり、職員が入れ替わっても確実に情報の伝達と共有ができていなくてはなりません。情報の伝達と共有は、よりよいケアを行うための絶対条件です。

看護・介護職員の場合は、ステーションに申し送りノートがあります。出勤時に必ず読み、しっかりと情報の把握をしてから仕事に入るようにしましょう。そのためには、時間と心にゆとりを持って出勤することも大切なことです。新しい伝達事項が増えますので、1日に何度も目を通しましょう。伝達事項も忘れずに記入してください。

腰痛、転倒による労働災害が多発

昨年の千葉労働局管内の社会福祉施設における死傷災害（休業4日以上）の労働災害を言うのは、681件と前年に比べて48%も増加しています。



発生している労働災害で多いのは、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」、次いで多いのが「転倒」による労災ですが、これらのうち1か月以上の休業になるものが約5割に達しています。厚労省は、腰痛による労働災害を防止することを目的として、「腰痛予防対策特設WEBサイト」を構築し、今年の10月から動画を公開しています。見てください。

職場におけるリスク管理

「例えば、突然の事故、家族の病気・介護、自身の体調が崩れる時もある。育休でも他の理由でも同じ。いつ、誰が長い休みをとるかなんてわからない。働いているのは人間なんだから。その時何が大事かと言ったら、誰が休んでも回る、帰って来られる環境を普段から作っておくこと。それが職場におけるリスク管理」

(逃げるは恥だが役に立つ 新書スペシャルから引用)

これから冬に向かって感染症の季節、急なお休みでの職員不足に困った時は、すぐに看護部長・介護部長に相談してください。

編集後記

コロナの自粛による運動不足でメタボが増えているそうです。注意を！ 介護部長